

## 1 はじめに

学術情報部門は、「知的情報の蓄積・管理（データベース化）」、「知的情報の発信」を柱に、学内の部局・研究室における各種データベース構築の技術支援や、統合的なデータベースシステムの企画・技術開発などの活動を行っています。現在、大学では「学内情報資産の統合管理と利活用推進」が求められており、その実現のため当部門では、情報システムの融合化を最大のミッションに定め、統合認証基盤、全学ポータル、リポジトリなどの構築および構築支援を精力的に実施しています。以下に2010年度の活動状況を報告します。

## 2 KU-SSO（金沢大学統合認証システム）

全学の情報システムに共通で利用できる統一IDとして「金沢大学ID」を採用し、各システムで利用できる共通認証システムを開発しました。このシステムは、シングルサインオンに加え、情報システム間でユーザの属性情報を共有することにより、複数のロール（身分）を持つユーザも1つのIDで利用可能とするなどの新技術を実現しており、保守性およびユーザビリティの高い学内情報システムの構築が可能となりました。

## 3 アカンスポータル（全学ポータル）

今年度「アカンスポータル」は、学生教育・学生生活を支援するためのポータルシステムから、大学の全構成員を対象とした総合ポータルシステムに生まれ変わりました。従来からの機能（大学からのお知らせ、授業情報、就職情報、図書サービスなど、学生の教育にかかわる各種サービス）に加え、ポータルシステムを介して、研究・業務などにかかわるサービスの提供も可能なシステムに拡張しました。今年度の主な整備項目を以下に示します。



- ・教職員向けの機能：MS 包括ライセンス、給与明細、事務局サイボウズ、電子職員録、教員情報 DB
- ・全体向けの機能：スケジュール管理、施設予約
- ・認証機能の強化：携帯からの利用環境改善（携帯のシングルサインオン対応化）
- ・安全・安心なポータルを目指した整備：セキュリティ点検、ユーザ管理機能、DBの2重化

## 4 Shibboleth による組織間認証連携基盤

国立情報学研究所（NII）が中心となって進めている Shibboleth による学術認証フェデレーション（学認：GakuNin）に積極的に参加しました。前年度に引き続き、Shibboleth によるシングルサインオン実験システムの開発、実証運用などの技術的な活動も継続し、加えて、今年度からは、GakuNin のシステム運用基準などの制度的設計や広報・啓蒙活動にも参加しました。

現在、利用者にもサービスを公開して運用実験を続けています。金沢大学教職員向けとしては、電子ジャーナル接続サービスを、GakuNin メンバー向けとしては、ファイル送信サービス、データリポジトリを利用可能です。また、KU-SSO と GakuNin は、どちらも Shibboleth を利用しており、それぞれの活動で得られた成果は、共有され、両者の発展に貢献しています。

## 5 デジタルデータリポジトリ

写真・動画などのコレクションや実験資料など、学内に蓄積されている非文献コンテンツを対象とした共通プラットフォーム（デジタルデータリポジトリ）を開発し実証運用を行っています。このシステムは、図書館が運用する学術リポジトリ（KURA）で利用されているリポジトリプラットフォームの DSpace を改良し、KURA では取り扱われない非文献コンテンツ用に最適化したもので、特に、保守性と可視性を向上させました。これにより、蓄積された非文献コンテンツの統一的な管理・公開手順の作成が可能となります。

## 6 研究・開発

高度なデータベースシステムや認証基盤に関する研究・開発も積極的に進め、実用システムへの応用を検討しています。表1に研究テーマの一覧を示します。

表1. 研究テーマ一覧

- ・実験・計測データ（バイナリデータ）への自己記述型データフォーマットの適用
- ・データマイニング（巨大データセットデータからの新事実発見）
- ・分散システム間の高度な認証・認可・属性共有法
- ・デジタルデータリポジトリ

■ 問合せ先：db-admin@db.kanazawa-u.ac.jp